L1J

本科２期 10 月度

解答

Ｚ会東大進学教室

高１東大国語

17章

【問題】（演習）

出典…上村芳郎『クローン人間の倫理』／北海道大学・06年

文章略解

「同じ」という言葉には、「同種性」と「同一性」の二種の意味がある。クローンによって作られるのは前者の性質を持ったものであるが、一般には後者の性質を持ったものとして誤解されている。人間における「自己」は、「かけがえのなさ」を持った存在であるはずであり、同一のものを作りだそうと考えることは、その絶対的存在の「尊厳」を傷つけることでもある。クローン技術の発達によって、交換不可能であるはずの「自己」が交換可能なものになりつつあり、人間の自己同一性が脅かされようとしているのである。

解答

問1　同じ種類の、という同種性と、まさしく当の、という同一性〔27字・5行目〕

問2　「私」という存在は交換不可能な絶対的存在であるが、社会の相対的な役割関係から考えれば、交換可能なものになってしまうから。〔60字・解答例〕

問3　ペットの飼い主は、死んだペットと同一の個体を作ることを考えているが、それはペットの存在の絶対性を無視した考えであるから。〔60字・解答例〕

問4　猫の場合は〔50行目〕

問5

「自分」という存在は絶対的なものであり、本来交換不可能なものである。しかしクローンによって全く同一のものを作ることができると誤解されることで、「自分」という存在が交換可能なものと考えられるようになり、人間の自己同一性が失われようとしている。〔120字・解答例〕

【問題】（自習）

出典…柏木博『しきりの文化論』／摂南大学・05年

文章略解

仕切は、人間関係がどのように考えられているか、ある社会や時代において人々が何を自らの内と外としたのかを反映している。日本の仕切はヨーロッパのように内と外を強固に分離するものではなく、相互に気配を感じさせるものであり、意識に関わる暗黙の境界であった。日本の近代は、自分たちの人間関係のあり方についてさほど問うことなく、近代的な公私の分離の思想を導入してしまった。そうした歴史的経緯をふくめて、私たちは改めてみずからの仕切を考えてみる必要があるかもしれない。

解答

問1 (ア)＝廃止　(イ)＝けはい　(ウ)＝しゃだん　(エ)＝さえぎ　(オ)＝経緯

問2 始め＝社会は契約　終わり＝社会」意識

問3 垂直面

問4 (1)＝(ウ)　(2)＝説教して回る僧の傘

問5 人間関係

問6 人間関係や社会関係をどのように考えているかを反映し、様々な空間を現出させる機能。〔40字・解答例〕

解説

問2　傍線部Aに「そうした」という指示語があるのだから、まずはその前段落（五段落）の内容を確認してみる。すると、「社会」意識についての記述があり、五段落前半に「近代的な概念としての『社会』意識」とある。だが、これだけでは、設問文にある「どのような『社会意識』か」の説明がなされていない。さらに次の文を見ると「簡単にいえば」とあり、これ以下に「社会」意識についての詳しい記述がみられる。社会は契約によって成り立つものであり、人々はその契約を守る義務を負う代わりに、個人の権利は守られるべきであるというのが、近代的な概念としての「社会」意識なのである。よって、後半の説明箇所を抜き出し、正解とする。

問3　空欄Ⅰの直前には「同じように」とあり、空欄Ⅰの直後には「～の仕切だけではなく、水平面での仕切もある」とある。この前後の記述をヒントにして解答を導き出す。まず、直前部分だが、何と「同じ」なのか。八段落の前半には、障子や襖、欄間やさがり壁といったものが例として挙げられている。これらの共通点は何か？　空間を遮るものであることは確かだが、この部分には明確な共通点の記述はない。そこで、今度は空欄直後の部分に注目する。すると、「水平面での仕切もある」とある。「水平面も」ということは、当然違った面があるということである。先ほどの障子や襖、欄間やさがり壁の共通点を考えてみよう。これらはどのような面を描くだろうか。当然、これらの仕切はすべて「水平面」ではなく、「垂直面」で存在するのである。よって、正解は「垂直面」となる。

問4　(1)この設問は、本文の読解に絡むものではなく、「敷居が高い」という慣用句の意味を聞いているに過ぎない。「敷居が高い」というのは、当然、物理的な高さを言っているのではなく、精神的な障害物を指しているのである。この時点で、(ア)「家の中の敷居が飛び出ていて歩きにくい。」と、(エ)「玄関の敷居を高くしてあるので跨いで入りにくい。」は正解から外す。残りの選択肢(イ)と(ウ)の内容を確認する。(イ)は「その家の人が嫌いなので行きたくない。」、(ウ)は「事情があってその家に行きにくい。」となっているが、慣用句の意味としては「その家の人が嫌いなので」という理由はそぐわないし、「行きたくない」というのは本人の意思であり精神的な障害ではないため、不適当。よって、(ウ)が正解。

(2)「暗黙の境界」とは、物理的な境界ではなく、意識によって作りだされる境界のことである。そこで、傍線部Bの前後を見て

みると、七段落には障子や襖や格子戸、八段落には欄間やさがり壁、九段落には僧の傘という例が挙がっている。これらのものはすべて「境界」であるが、設問には「暗黙の境界」とあることに注意。障子や襖や格子戸、欄間やさがり壁は、家の中で「仕切」つまり「境界」を示すものとして存在している。ところが、九段落の僧の傘は、本来は「仕切」または「境界」としては存在しないものが、意識の働きかけによって「仕切」となっており、抽象度が高い。よって、意識に関わる「暗黙の境界」の例として、最適なものは「説教をして回る僧の傘」となる。

問5　空欄Ⅱの前後に注目しよう。前に「その仕切は、日本における」とあり、後ろには「〜のあり方を反映していた」とある。ここから、空欄Ⅱに入るべき言葉は「日本の仕切」に関することであることは容易に想像がつく。さらに、主語に「その」という指示語があるのだから、「その」の内容を明らかにしなくてはならない。「その」は直前の文章を受けており、「その仕切」とは「相互に気配を感じさせる（日本の）仕切」のことである。以上のことを踏まえて、日本の仕切について述べている箇所から探していく。日本の仕切について述べているのは七段落と八段落である。七段落をみると「それは日本における人間関係のあり方を映し出している」とあり、「それ」が指す内容は「日本の仕切」であることから、「日本の仕切は人間関係のあり方を映し出している」のだと分かる。よって、空欄Ⅱにあてはまる語は「人間関係」となる。念のため、二つめの空欄Ⅱにも「人間関係」をあてはめてみる。ここの箇所では、「人間関係がどういうものであったのか」＝「仕切の意味」という図式が成立するが、三段落に「わたしたちの人間関係（社会的関係）がどのように考えられているかが仕切に反映される」とあることから、内容として矛盾せず問題なし。

問6　記述のポイントが「「仕切」の機能」であることに注意。まずは、「仕切」の働きについてまとめてみよう。一段落には、「仕切」は「人間関係を仕切るもの」「空間に与えられた機能を振り分ける装置」とある。さらに三段落には、「仕切」は「わたしたちの人間関係（社会的関係）がどのように考えられているかが仕切に反映される」「ある社会において、またある時代において、人々が何を自らの内とし、何を外としたのかを反映している」とあり、「仕切」の機能について触れている。この二箇所を一つにまとめたいのだが、十段落に「仕切（それは個人、家族、社会がいかなるものであるのかを反映している…）」とまとまっている箇所があるので、そこを使ってもよい。ここまでのポイントをまとめると「仕切は、わたしたちが人間関係や社会関係をどのように考えているかを反映する。」となる。ただし、「仕切」の機能はこれだけではない。「仕切」の基本的な役割は「空間を生み出すこと」

である。ヨーロッパと日本とでは、（物理的と意識的と表現できるように）空間の生み出し方に違いはあれども、ともに「仕切」によって、様々な空間を作りだすことには変わりはない。そこで、先ほどの文章に「空間を生み出す機能」を加えて、まとめなおす。「空間を生み出す」だと字数が多くなってしまうので、ここでは「空間を現出させる機能」と表現した。まとめの文末がきちんと「機能」に対応する形になっているか注意。「仕切とはどのようなものか」ではなく、働きや機能にポイントを置こう。

18章

【問題】（演習）

出典…A『論語』「公冶長」　B『論語』「顔淵」　／　上智大学・文学部・改

書き下し文

A　子貢曰く、「我が人の諸を我に加ふるを欲せざるは、吾も亦諸を人に加ふる無からんと欲す」と。子曰く、「賜や、爾の及ぶ所に非ざるなり」と。

B　仲弓　仁を問ふ。子曰く、「門を出でては大賓に見ゆるがごとくし、民を使ふには大祭を承くるがごとくす。己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれ。邦に在りても怨無く、家に在りても怨無からん」と。仲弓　曰く、「雍不敏なりと雖も、請ふ此の語を事とせん」と。

現代語訳

A　子貢が言った、「私の、人が自分におしつけていやだと思うことは、私もまた人にしかけないようにしたいと思います」と。孔子は言った、「賜よ、（それは）おまえのできそうにないことだよ」と。

B　仲弓が仁について尋ねた（＝仁とはどういうことでございますか、と問いかけた）。孔子が（答えて）言うには、「一たび門を出て世の人と交わる場合は、あたかも身分の高いお客を迎えた時のようにし、また、人民を公役に使う場合は、あたかも大切な祭りを執り行うようにする。自分がしてほしくないと思うようなことを、他人にしてはいけない。（こうすれば、人は）国にいても（＝諸侯に仕えていても）人から怨まれることがなく、家にいても怨まれることがない」と。仲弓は言った、「私は愚か者でありますが、このお言葉を一生懸命守りたいと思います」と。

解答

問1　(1)＝人の諸を我に加ふるを欲せざるは、吾も亦諸を人に加ふる無からんと欲すと。　(2)＝(イ)

問2　(ア)

問3　(ア)

【問題】（自習）

出典…『論語』「子張」　／　学習院大学・文学部・改

書き下し文

子夏の門人交はりを子張に問ふ。子張曰く、子夏は何と云ふと。対へて曰く、子夏曰く、可なる者は之に与し、其の不可なる者は之を拒めと。子張曰く、吾が聞く所に異なり、君子は賢を尊びて衆を容れ、善を嘉して不能を矜む、我の大賢ならんか、人に於いて何ぞ容れざる所あらん、我の不賢ならんか、人将に我を拒まん。之を如何ぞ其れ人を拒まんやと。

現代語訳

子夏の弟子が（人との正しいつきあい方とはどういうものか、という）交際の心得について子張に尋ねた。子張は（問い返して）言った、「子夏は何と言ったか」と。（子夏の弟子は）お答えして言った、「子夏（先生）は、『（交際するのに）ふさわしい人と親しくし、ふさわしくない人とは（交際を）断れ』とおっしゃった」と。（そこで）子張が言った。「（それは）私が（孔子先生から）聞いたこととは違っている。立派な人物はすぐれた人を尊び（親しく交際する一方で、）一般の人々をも受け入れ、善い人をほめたたえ（その一方で、）だめな人にも同情する。（もし）自分が非常にすぐれた人間であったら、どんな人でもどうして受け入れないことがあろうか（いや、誰でも受け入れるだろう）、（もし）自分が劣った人間であったら、相手の方がすぐさま自分（とつきあうこと）を断るだろう。（だから）どうして自分の方から人を断ることがあろうか（、いや、そんな必要はないだろう）」と。

解答

問1　交際の心得について子張に尋ねた。〔解答例〕

問2　(ア)・(ウ)・(オ)

問3　子張が孔子から（聞いた）

問4　どんな人でもどうして受け入れないことがあろうか、いや、誰でも受け入れるだろう。〔解答例〕

問5　(イ)

解説

問1　傍線部解釈の設問。漢文も「書き下し文」にしてしまえば、古文の一種となる。したがって、解釈問題の答え方も「直訳」を原則とする古文の解釈問題と基本的に同様であるが、古文にはない漢文特有のポイント、①「読み方」と「訳し方」の決まっている「句形」や「語法」に関する漢字、②指示語の内容や主語など補うべき要素、③時制（前後の文脈から過去形にするなど）などの点に注意して答えればよい。さて、傍線部を含む一文は「於」が《置き字》で、「主語（＝子夏の門人が）＋述語（＝問ふ）＋目的語（＝交を）＋於＋補語（＝子張に）」という英語の「SVOO」を思わせる文型が設問のポイントとなっている。返り点は省かれてはいないので、傍線部の書き下し文は「交を／子張に／問ふ」となる。「交」はこのままでは意味が不明確なので、あとの本文の内容から判断して「交際の心得について」などと、「交」を含む熟語を使って意味を明確にしておきたい。「問ふ」は「尋ねる」「質問する」などでよいが、《現在形》のままでは不自然だ。古文の場合とは違い、漢文は訓読の際には《現在形》で読んでも、通釈の際には前後を考えて「尋ねた」のように時制を加味して訳すのが原則である。

問2　内容判別の設問。漢文で多用される「対句」的な表現に着目して考えることがポイント。傍線部「可者」の「可」は、通常は「べし」と読んで「可能」などの意味を表す助動詞だが、この場合は下に意味を添えるべき用言がない。そこで、「可」に断定の助動詞「なり」をつけて《用言化》して「可なる／者は」と読む。この一文では「可者与之、其不可者拒之」と対比的に述べてある点に着目して、「可なる者」はあとの「不可なる者」とは逆の、交際相手として「プラス評価の相手」を述べたものと解釈できる。これをふまえて、各選択肢の語句を本文内の文脈を考慮して判定していけばよい。「賢」と「衆」、「善」と「不能」、「大賢」と「不賢」は、それぞれ文脈的にも語義的にも対立的な内容で、ペアとなっている。各ペアから「プラス評価」の方を選んで答えればよい。

問3　主語判定の設問。古文や漢文の主語判定の設問は、紛らわしいから聞いているはずであり、何となく答えるだけでは失敗する。結局は登場人物をすべてリストアップしてしまって、消去法も組み合わせて答える方が速くて確実だ。主人公になっている人物を中心に「貴・賤」「賢・愚」と「実際に登場するか・話題だけか」などについて押さえておくとよいだろう。この文章の場合、場面に実際に登場する人物は「子張」と「子夏の門人」の二人だけだが、話題としては「子夏」が登場しているが、それ以外に『論

語』という典拠の常識として「孔子」が挙げられなくてはならない。『論語』の中で単に「子（し）」と言えば「師（＝先生）」である「孔子」を指す。さて、傍線部は「子張」のことばであり、その「先生」だということだから、同じく孔子の弟子である「子夏」ではなく、共通の師である「孔子」だと答える必要がある。『論語』は儒家の祖とされる「孔子」の言動を門人たちが記したもので、古典中の古典と目される書物であるので、主たる登場人物は知っておいた方がよいだろう。まず「孔子」だが、春秋時代の魯（ろ）の人で、名は「丘（きゅう）」、字（あざな）は「仲尼（ちゅうじ）」、諡（おくりな）は「文宣王」。多くの弟子がいたが、「孔門の十哲」と呼ばれる十名の主たる門人は、「行に優れた顔淵（がんえん）・閔子騫（びんしけん）・冉伯牛（ぜんはくぎゅう）・仲弓（ちゅうきゅう）、言語に優れた宰我（さいが）・子貢（しこう）、政事に優れた冉有（ぜんゆう）・子路（しろ）、文学に優れた子游（しゆう）・子夏（しか）」である。

問4　傍線部解釈の設問。傍線部の書き下し文は「人に於（お）いて／何ぞ／容（い）れざる所／あらん」となる。句形は疑問詞「何」を「何ぞ……ん（や）」と読む《反語》の形である。漢文では《反語》と《疑問》はほとんど同じ形式をとるが、日本語として訓読する際には文末表現を明確に読み分ける。《疑問》の場合には訓読の文末を「連体形（＋か）」または「終止形＋や」と終るのに対し、《反語》の場合には「未然形＋ん（＋や）」と終るのを原則とする。仮に送り仮名が省かれている場合でも、《疑問》の場合には直後で相手がその疑問内容に応答するのが普通であるのに対し、《反語》の場合には疑問には応答しないことでも見分けがつく。さらに、もし《反語》に解釈すれば、その意味も字面とは反対になるので、意味内容からも判断がつくはずである。この場合は明らかに《反語》なので「どうして……だろうか、いや……ではない」という《反語》の解釈の公式通りに訳出する。むしろ難しいのは「人に於て」の解釈であろう。「於」は今度は前後の関係から訓読しているので「置き字」とは呼ばないが、その意味は置き字とした場合と同様で、英語の「at, in, on, than, by, for, to, from, ……」などいくつかの前置詞の意味をあわせ持つような重要な語である。「人に於て」で「人の中で、人なら」といった意味であるが、《反語》と組み合わせて「どんな人でも」と解釈する。なお、この「於」は「于」・「乎」も同様に用いるので、「於・于・乎」とひとまとめにして記憶しておきたい。

問5　傍線部解釈の設問。「全文の論旨を考え」という条件が付いている。単に傍線部の解釈だけでなく、他の箇所で述べていることも判断材料に使うが、選択肢があることからむしろ全文のヒントともなる設問である。さて、傍線部の書き下し文だがやや難しい。

「之を／如何（いかん）ぞ／其れ／人を／拒まんや」となる。疑問詞「如何（いかん）せん」が「如何ぞ……ん」という反語専用の形で用いられていることと、「如何」は《目的語》にあたるものを二字の間に挟み込むことが訓読を困難にしている。ただし、「……んや」という文末表現から《反語》であることを見抜けばおよその意味は判断可能であるし、選択肢を逆に利用すればその意味を推定することはさほど困難ではない。読点「、」の下や「は」「を」「に」などの助詞の下で句切りを入れて、各選択肢を横方向に比較する気持ちで検討するとよい。各選択肢の後半部分は紛らわしいが、中盤部分は㋐「自分できめる」、㋑「相手がきめる」、㋒「当人同士の合意できまる」、㋓「片方の意志できまる」と、明らかに別々であるのでここでしぼる。傍線部直前の「……人將に我を拒まん」から「人がきっと自分を拒むだろう」という意味をくみとって、それに合致している㋑「相手がきめる」をとる。

19章

【問題】（演習）

出典…『晋書』「郭翻伝」　／　お茶の水女子大学・改

書き下し文

翻嘗て刀を水に墜す。路人為に取る者有り。因りて之に与ふ。路人取らずして、固辞す。翻曰く、「爾向に取らずんば、我豈に能く得んや」と。路人曰く、「我若し此を取らば、将に天地鬼神の責むる所と為らんとす」と。翻其の終に受けざるを知り、復た刀を水に沈む。路人焉を悵み、乃ち復た沈没して之を取る。翻是に於て其の意に逆はず、乃ち十倍の刀価を以て之に与ふ。其の廉にして恵を受けざること、皆此の類なり。

現代語訳

郭翻はあるとき、剣を川の中に落とした。通りかかった人で、郭翻のために（川にもぐって）剣を取ってくれた人がいた。そこで郭翻は剣をその人に与えようとした。（しかし）その人は剣を受け取らず、固く辞退した。郭翻が言った、「あなたが先程（川から剣を）取ってくれなかったら、私がどうしてこの剣を（再び）手に入れることができたでしょうか（、あなたのおかげで取ることができたので、あなたにさしあげたいのです）」と。（すると）その通りがかりの人は言った、「私がもしこの剣を受け取ったなら、天地の神々にとがめられることになってしまうでしょう（、剣が欲しくて取ったわけではありません）」と。郭翻はその人が結局受け取らないと悟り、再び剣を川に沈めてしまった。その通りがかりの人はそれを憂い悲しんで、もう一度川にもぐって剣を取ってきた。郭翻はそこでもうその人の気持ちに逆らわず、剣の十倍の価のお礼をその人に与えた。郭翻の清廉で人から施しを受けない態度は、みなこのようであった。

解答

問1 ⓐ＝かたなをみづにおとす　ⓑ＝われあによくえんや　ⓒ＝そのいにさからはず

問2 郭翻が、落とした刀を拾ってくれた通りがかりの人に、その刀を与えようとした。〔解答例〕

問3 所責矣〔本文3行目〕

問4 (b)・(c)

問5 (エ)

【問題】（自習）

出典…劉義慶『世説新語』「*夙慧」第十二の一節　／　南山短期大学・改

＊夙慧――幼くして聡明な児の挿話。

書き下し文

晋の明帝数歳にして、元帝の膝上に坐せるとき、人の長安より来たる有り。元帝洛下の消息を問ひ、潸然として流涕す。明帝問ふ、「何を以て泣くを致せる」と。具に東渡の意を以つて之に告ぐ。因りて明帝に問ふ、「汝が意に謂へらく、長安は日の遠きに何如」と。答へて曰はく、「日遠し。人の日辺より来たるを聞かず。居然として知るべし」と。元帝之を異とす。明日　群臣を集めて宴会し、告ぐるに此の意を以つてし、更に重ねて之を問ふ。乃ち答へて曰はく、「日近し」と。元帝色を失ひて曰はく、「爾　何故に昨日の言に異なるか」と。答へて曰はく、「目を挙ぐれば日を見るも、長安を見ず」と。

現代語訳

東晋の明帝が幼いとき、（父の）元帝の膝に坐っていると、長安からやって来た人がいた。元帝は洛陽の様子をたずね、はらはらと涙を流した。明帝が聞いた、「どうして泣くの」と。（元帝は）ことこまかに、江南に渡ってきたときの事情を語って聞かせた。そこで（元帝は）明帝にたずねた、「おまえは、長安とお日さまのどちらが遠いと思うかね」と。（明帝は）答えて言った、「お日さまが遠いよ。お日さまのところから人が来たって聞かないもの。ちゃんとわかるよ」と。元帝は利発な子だと感心した。翌日群臣を集めて酒食をふるまった際、（元帝は）この気持ちを述べ（＝明帝を利発な子だと紹介し）、そしてもう一度明帝にたずねた。すると（明帝は）答えて言った、「お日さまの方が近い」と。元帝はうろたえて言った、「おまえは、どうして昨日言ったことと違うことを言うのか」と。明帝は答えて言った、「目をあげたらお日さまは見えるけれど、長安は見えないもの」と。

解答

問1　①＝よりて　　②＝すなはち（すなわち）　　**問2**　不レ聞下人従二日辺一来上。

問3　なんぢ（じ）なにゆゑ（え）にさくじつのげんにことなるか（や）（と）。　　**問4**　(ア)

解説

問1　漢字の読みが問題になる場合は、重要な助字である場合が多いので、確実に読めるようにしておこう。

①「因」は、「よりて」。「因」は、漢字から推測できると思うが、「～にもとづいて」「～のために」という意味を表す。使い方としては、大きく分けて、傍線部①のように、もとになる上文を受けて〈因リテ〉と読んで下へ続く場合と、もとになるものが下にあり、下から返読して〈～ニ因リテ〉と読む場合とがある。傍線部①のように、上文を受けて下に続ける時は、「そこで」「その機会に」「そのついでに」と訳すとよい。「よリテ」と読む漢字には、他に「縁」「依」「拠」などがあるが、これらには、下から返って「～によりて」と読む用法しかない。

②「乃」は、「すなはち」と読む。「すなはち」と読む助字はいくつかあって、その代表的なものを次に示しておくので、これを機会に覚えてしまおう。

ⓐ
- 乃チ＝こうして、そこで、それに、やっと、～ということになろうと、これは……
- 即チ＝つまり、とりもなおさず、すぐに、すぐその時……
- 則チ＝～その時には……、～は、そこで、それに……

ⓑ
- 便チ＝すぐに、たやすく……
- 輒チ＝そのたびごとに、たやすく……
- 載チ＝～しながら……

グループⓐが最重要で、まず覚えてほしいものだ。余力があればⓑも覚えよう。特に「輒」は、よく読みが問われる文字である。

問2　まず「不」に着目。これは動詞や形容詞を否定し、必ず返って読む助字である。すると「不聞」は、「聞」が動詞だから、「不」

聞」であることがわかる。次に残りの部分を見る。「人」とあるので、これに対する述語を探すと、「従」と「来」の二つの候補が見つかる。「従」だったら、「日に従う」あるいは「日辺に従う」となるが、人間が太陽に従う（後をついて歩く）わけはない。よって、「人」に対する述語に当たるのは「来」の方だと判断できる。するとここでの「従」は、「より」と読み、方向・起点を示す助字であると考えられる。では「従レ日」なのか、「従二日辺一」なのかという問題になるが、これは前者のように読んでしまうと、「人―辺―来」という意味をなさない文章の骨格が残ることになるので無理がある。したがって、「従二日辺一」とする方が自然。「聞」の後には、目的語に相当する語句がくるが、「人～来」がその句に当たるのは、簡単にわかるだろう。したがって、最終的には、「不レ聞ニ人従二日辺一来上」と返して、「人の日辺より来たるを聞かず。」と読む。「聞」の目的語が「主語＋述語」になっている時は、普通、その主語に「ノ」と送り仮名を付けることに注意。

問3　考え方自体は、右の**問2**と同じ。書き下し文を「かながき」で求められた場合は、これに漢字の読みができるか否かが含まれるのみである。傍線部(b)においては、「爾」「何故」「之」「邪」の四箇所が正しく処理できれば問題はない。「爾」は「汝」と同じ音を持つことから、「汝」と同じ意味で使われる。「爾」は代名詞で二人称、「なんぢ」と読む。文頭にあることから分かるように、これは主語。「何故」は疑問辞で「なにゆゑニ」と読んで、理由を問う意を表す。返り点は付かない。文末にある「邪」は、「か」「や」のいずれかに読み、疑問を示す助字である。「昨日之言」は「昨日」という体言と「言」という体言を「之」で結んでいることから、「之」は「の」と読む連体修飾を表す助字だと判断できる。「昨日之言」で一連の名詞句になる。なお「昨日」は音読みして「さくじつ」とし、「きのう」と訓読してはならない（↑漢文のきまり）。「異」は「異なり」と読めば形容動詞、「異にす」と読めば動詞で、前者は「異ニ（体言）一」、後者は、「異ニス（体言）ヲ」と読む。「異なる」は「同じではない」、「異にす」は「別にする」の意である。ここでは、言っていることが「日遠」「日近」と違っているので、「異なる」で読むことになる。

以上のことから、「爾何故異ニ昨日之言一邪」となり、「なんぢなにゆゑにさくじつのげんにことなるか」と読むことになる。なお、これは会話文の最後であるので、会話文を締めくくる「と」を最後に付けた方がよい。

問4　本文の内容の要所を押さえた上で、選択肢の中から確実に異なる点を順々につぶしていく方法が、最もオーソドックスであろう。本文の中で押さえるべき点は次の通り。

ⓐ 幼い明帝の返答を中心とするエピソード。
ⓑ 元帝と明帝のやりとりによって構成されているエピソード。
ⓒ その時の状況に応じて答えが変わる。（柔軟な思考）
ⓓ 明帝の答えでエピソードが結ばれて、その答えに対する反応が示されていないことで余韻が生じている。

次に選択肢を見る。確実に違っているものとして、まず㈎が挙げられよう。「妥協することを認めない純真一途な考え」とあるが、これは右のⓒに矛盾する。「一途」ではなく「状況に応じた」考えを、明帝は行っている。次に違うものとして㈑が挙げられよう。「並み居る家臣たちの思惑」とあるが、このエピソードでは、「家臣」がどう思っているのかは一切述べられていない。つまり右のⓑを外している。これと同様に㈓の「一同にとっては……改めて感嘆」も違う。

残った㈐と㈒はかなり迷うかもしれないが、選択肢吟味の方法さえ心得ていれば、すぐに㈒が消せるはず。なぜかと言えば、㈒の「大人どもを煙に巻き」の「大人ども」と複数になっている点が、㈑の「並み居る家臣」、㈓の「一同」に相当する表現である上に、「煙に巻き、にこにこしている」というのは、明帝の返答に対し、元帝・群臣が反応を起こし、それに対する明帝の表情描写であるはずだが、本文にはこれが一切ない。従って、右のⓑ・ⓓに反するものである。よって残った㈐が正解。ちなみに、㈐の「いかにも利発な子供」「大人の（↑単数である点に注意）常識では考えもつかない……発想」「機知に富んで」と、この選択肢の中の三つの要素は、すべて明帝の返事の内容を対象としたものなので、本文に反していないといえる。

20章

【添削課題】

出典…高階秀爾『日本近代の美意識』／島根大学

文章略解

美術の全歴史は「画家は窓を通して自然を見るのではない。先輩や師匠の作品を通して見るのだ」という一句の中に集約的に表現されている。捉われない眼に写る渾沌とした世界に秩序を与えるのが、「先輩や師匠」の「眼」である。ただし、伝承された様式は一つの手本として意識された時に初めて伝統となる。古くから伝えられてきた伝統が人々に強く意識されるのは、それが失われた時か、失われる危険にさらされている時である。その意味で、伝統とは危機の時代の産物であるといえるのだ。

解答

問1　①＝白日　②＝継続　③＝拙劣

問2　混沌でしかない景観に秩序を与え対象を視覚的に認識する方法を先人から学ぶということ。〔解答例〕

問3　我々現代人から見て「不自然な」だけであって、古代エジプト人にとっては「自然な」ことであったのを強調したかったから。〔解答例〕

問4　伝承されたものが、一つのモデル・手本として意識されること。〔29字・解答例〕

特別問題

美術の全歴史は〈画家は「先輩や師匠」たちの「眼」を通して対象を認識する〉という表現に集約される。先人の「眼」は、混沌とした世界に秩序を与え、対象を明確に認識させる表現様式として伝承されていった。様式は手本として意識されることではじめて伝統となるが、伝統が人々に強く意識されるのは、それが失われた時か、失われようという危険にさらされている時である。その意味で伝統は危機の時代の産物だと言える。〔195字・解答例〕

【問題】（自習）

出典…小山慶太『神さまはサイコロ遊びをしたか』／日本女子大学

文章略解

太陽崇拝思想を最大の特徴とする新プラトン主義を学んだコペルニクスの「地動説」は、〝太陽中心説〟と表現した方がその実態に近く、ギリシア時代の人々が思い描いた天動説の構図に似ている。地球を動かしたという英断だけを持ち上げすぎると、コペルニクスの自説の真の背景が見えなくなる。コペルニクスの説は旧来の宇宙観を完全に払拭した上で新しい体系を提示したものではなかった。それどころか、古代の自然観を母胎とし、中世の神秘思想に包まれながら生まれたものである。我々はこうした近代科学〝出生の秘密〟をゆめゆめ忘れてはならない。

解答

問1　太陽中心説

問2　古い天動説が、コペルニクスの新しい説よりもすぐれていた点。〔解答例・29字〕

問3　結果として　　**問4**　(3)　　**問5**　(a)＝対称　(b)＝化身　(c)＝旗手

解説

問1　本文の冒頭では、コペルニクスの宇宙体系を指す言葉として「地動説」よりは、むしろ、新プラトン主義にみられる「太陽崇拝思想」の影響が色濃く現われていることから、［A］という表現をした方が実態に近いと述べているので、［A］に入ることばは「太陽崇拝思想」と一致し、さらに「説」という語がついたものをさがす。すると、第十段落に「コペルニクスの〝太陽中心説〟」がすぐに目につくはずである。

問2　我々はふつうギリシア時代の「天動説」よりは、コペルニクスの新しい「地動説」の方がはるかにすぐれていると思っているのに、本文では「当時の天動説はコペルニクスの〝太陽中心説〟よりもはるかにすぐれていた」と書かれており、この点が〝皮肉〟なのである。

問3　傍線部Cは「その事はさておいて」という意の慣用句である。では、「その事」（＝それ）とはどこをさしているのか。その指示内容を考えるために、まず、「その事はさておいた後」には何が述べられているかを見てみる。するとコペルニクスの「地動説」を持ち上げるとコペルニクスが自説を唱えた真の背景が見えなくなると述べ、「地動説の単純な評価を否定」している。ということは、「その事についてさておく前」は逆に、「地動説を高く評価している」ということになり、そこに相当するのが直前の第十二段落の最後の一文の「結果としてみれば…ニュートン力学へとつながっていく。」の部分である。

問4　傍線部Dの〝出生の秘密〟とは、繰り返し述べられているコペルニクスの「地動説」の意外な事実のことである。それは直前で「地動説は古代の自然観を母胎とし、中世の神秘思想の産衣に包まれながら産み落とされたのである」と述べられている。その古代の自然観というのが、第八段落にある「古代の人々に通じる一辺倒な太陽崇拝思想」のことであり、中世の神秘思想というのが、第二段落の「新プラトン主義」のことである。つまり「地動説」は、新プラトン主義を学んだコペルニクスが強く影響を受けた太陽崇拝思想にのみ基づき説かれたものである。それは第八段落にも述べられているように、科学の議論というよりアニミズムの活のようなものであり、このようなことは表に出ず隠れていたために人々が見ることができなかったことである。

(1)　「神の力が関与している」の部分がおかしい。

(2)　「近代科学が…客観的で理性的な探求のみによって誕生したわけではない」という部分が、近代科学（つまりコペルニクスの地動説）の誕生に見られるのは「古代の人々に通じる一辺倒な太陽崇拝思想だけ（第八段落）」と矛盾する。

(4)　計算方法の精度の面で、神秘主義より近代科学の方が劣っていたことが〝出生の秘密〟ではない。

(5)　近代科学の誕生における人間ドラマが、今日の覗き見趣味を満足させる、ということは文中で述べられていない。

L1J
高１東大国語

Z-KAI

会員番号	

氏　名	

不許複製